



1977年(昭和52年)47歳 うるま市生まれ 亡父は屋慶名、母は泡瀬出身。旧姓:山根
家族構成 夫、娘2人(8歳と5歳)
ことぶき保育園(沖縄市大里)、普天間第二小学校、琉大附属中学校、興南高校
介護福祉士取得、那覇看護専門学校 准看護師免許取得、浦添看護学校 看護師免許取得
訪問ヘルパーとして介護職をスタートし、その後介護福祉士、看護師となる。
現在、あいあい保育園(美原園)勤務
給食費負担軽減を願うママ・パパの会代表、美里小学校PTA副会長

沖縄市議会議員補欠選挙 候補者

たかえす みどり

子育て世代、生活者の声

給食費無償化

介護士、保育士 待遇改善

平和な沖縄



みお

投票日

26日

第14回沖縄市長選挙および
沖縄市議会議員補欠選挙

期日前投票 2025年1月20~25日

History of MIDORI

たかえすみどりの歩み

私の原点 ハーフとして生まれた母の存在

米軍統治下の1955年、沖縄の人の人権も踏みにじられていた時代に私の祖母と米兵の間に生まれた母。「アメリカー」と石を投げられた幼い頃の母。そんな母の悲しい経験を聞いて育ち、幼少期から世の中の理不尽さを感じて過ごしてきました。母の存在が、差別や偏見、社会的に弱い立場の人について考える私の原点となりました。



福祉職の生活不安を痛感した20代

25歳、訪問ヘルパーとしてスタートした福祉職。その後、介護福祉士として8年地域の施設を経験しました。高齢者との触れ合いにやりがいを感じつつも、待遇面で感じる将来への不安。福祉職の待遇面での社会的地位の不安定さを痛感。30代、看護師を目指し、看護学校入学。准看護師、正看護師免許取得



娘たちが安心できる平和な沖縄を願う

1995年、少女暴行事件の県民大会に高3で初めて参加。約20年後、第一子妊娠中の2016年、うるま市の女性が元米兵に殺される事件が起きました。繰り返される悲しい出来事、なぜ沖縄だけ、こんなにも基地負担をし続けなければいけないのか？基地がなければ母は生まれず、私もこの世に生まれることはありませんでした。しかし、今後の沖縄に基地はいらない。2人の娘が暮らしていく沖縄は平和な島であってほしいと願っています。



40代 長女の小学校入学を機にはじめた給食費の署名活動

2023年、長女が小学校に入学して気づいたことは、義務教育なのに想像以上に経済的負担があることです。給食費や教材費など定期的に発生する徴収金に驚くばかり。周りの保護者と話してみると、皆同じような負担感を持っていました。せめて毎月の給食費が半額になればと思い、たった1人ではじめた署名活動。「給食費負担軽減を願うママ・パパの会」の活動に賛同する保護者が1人、また1人と増え、沖縄市民の中に共感の輪が広がりました。



これまで3度、市議会へ請願書を提出し、市民の署名累計10,000筆以上届けてきました。市議会へ市民の想いを伝え続け、賛同議員の協力を得ながらも、いまだ給食費半額助成の請願書は採択にいたっていません。



たかえすみどり事務所

沖縄市美里5-9-14-D (美里小学校向い)
090-1947-2123



子育て世代、生活者の 声を届ける

物価高の今こそ！
市民生活最優先

たかえす みどり

介護が大事！

● 移動支援

高齢者・障がい者の買い物のための交通手段の充実

● 介護士・福祉職の待遇改善

介護保険制度・障害福祉サービスがあっても人材が不足すると介護サービスが受けられない。
専門性と誇りを持って働ける環境と待遇の改善。

● レスパイトケアの充実

家族介護者の支援策の充実。ケアする人のケア支援策。

平和・人権が大事！

● 基地のない平和な沖縄をめざす

不平等な日米地位協定を改正し、日本の主権を確立する。

● 安心して飲める水の確保

PFASの汚染対策を国に求める。

● こどもの権利や性教育を学ぶ場づくり

子どもの権利や性教育について親子で楽しく気軽に学べる場の周知拡大。
すべての人の性の多様性が認められる社会をめざす。



子どもが大事！

● 給食費無償化

すべての子ども達が安心して教育を受けられるように。
私立・不登校の子にも柔軟な支援を。

● 学童の待機児童の解消

月謝の負担軽減、申し込み方法の簡素化。

● 公立学校の特別支援教育の支援員の充実

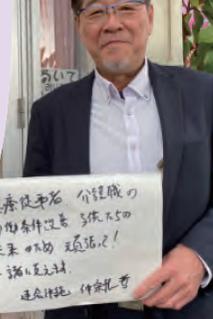
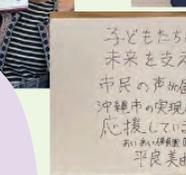
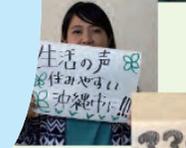
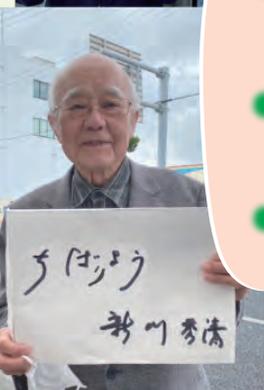
● 子どもの最善の利益に配慮した
相談窓口の設置・周知

生活者が大事！

● 教員や保育士の市外への人材流出ストップ
魅力ある支援策で働きたくなる沖縄市へ

● 子どもを支援する福祉職員の待遇改善
放課後の子どもの居場所のスタッフ、学童保育支援員など。

● 人口増加と税収増の好循環で地域経済の活性化を
人口流出を止め、定住と子育て世帯への支援で
人口増→税収増→消費拡大の好循環を生み出す！



2022年から人口減少がはじまった沖縄市。子どもたちは街の宝。子育て支援策を充実し住みたくなる沖縄市へ。

お年寄り、働く世代、子どもたち、全ての世代が支え合い、暮らしやすい街づくりを、みんなで一緒に考えてみませんか？